

コロナ禍における活動 ～展望を求めて～

狭山市三曲連盟 会長 竹迫ミナミ

2020年、輝かしいオリンピックイヤーとなるはずであった年明け早々、新型コロナウイルス感染の騒動が勃発。これほど深刻な状況になるとは思いもよらず、2月23日の芸術祭参加以降「桜まつり」、「新茶と花いっぱいまつり」、「オリンピックおもてなしイベント」、「大茶会 博物館コンサート」と全ての演奏予定が次々と中止となってしまった。

私達の仕事は、日常生活に不可欠なものでもなく、通ってくる生徒さん達も「コロナが落ち着くまでは…」と自粛を余儀なくされている。この自粛期間に連盟の目標である邦楽普及について話し合おうとメールのやり取りを展開。これがなかなか難しい…。文字のやりとりのみでは表情もニュアンスも伝わり難い。さりとしてリモート会議もハードルが高い。

具体的な目標がないと自主トレにもなかなか身が入らない。取りあえず行動に移すべく2021年夏頃を目処に、連盟の正会員(指導者)のみでミニコンサートを企画。演奏者も密にならず、観客席とのソーシャルディスタンスもどのように取れるだろうか、With コロナとして実体験を通し今後の演奏活動と三曲連盟の体制作りを考えて行きたい。



狭山市三曲連盟は、自分たちの文化活動がこの狭山市に於いて、より良く遂行出来るように今後とも文団連の皆様と力を合わせて、市の内外にアピールして行きたいと考えている。

狭山市新舞踊連盟発足25周年に思う

狭山市新舞踊連盟 会長 藤寿紫峰

当連盟では今年10月に25周年記念舞踊発表会を開催する予定となっておりますが、新型コロナウイルスの為に残念ながらありませんが延期となりました。

思い起こせば、当連盟が発足したのは、平成7年1月の阪神淡路大震災の報道を見ては涙していた年でした。また、平成23年3月の東日本大震災により文団連主催の桜まつりも中止となった年には、新舞踊連盟の定期公演も中止を希望する意見が出てしまい止む無く中止。

しかし「こんな時だからこそ皆さんに少しでも舞踊を見て心を和ませていただきたい」と思い、私が指導する一会派でチャリティー舞踊発表会開催を決めました。結局、最終的には連盟の先生方が全面的に協力してくださり、20万円以上の募金を狭山市社会福祉協議会の方へ寄付することができました。



人は悲しい時辛い時は何かに縋りたい。そんな時は楽しい音楽を聴いたり舞台を観たり、色々な文化にふれたり多くの方々と会話したりして気持ちを切り替えていく。今回、コロナで様々な行事が中止となり、未だに今後がどのようなようになってゆくのか分からない不安な日々を過ごしてる状況に「自分の身が危険な時に趣味どころではない」と言われる方々も居られることと思いますが、私はコロナから自分自身を守り、今まで通り舞踊を楽しみ、多くの方々に癒しをお届けしたいと思っております。その為にも、新型コロナウイルスが早く収束し、来年は25周年記念舞踊会が開催できることを願っております。